



2学期が始まりました

今年度から夏休みが8月31日までとなり、9月1日から2学期が始まりました。今年の夏は特に暑く、夏休み中に運動場に遊びに来る子どもの姿はほとんどありませんでした。長期予報によると、9月・10月も暑さが続くようですが、季節は確実に進んでいきます。ツクツクボウシが夏の終わりを、コオロギが秋の訪れを告げています。生活のリズムを徐々に学校生活に合わせるようにして、2学期の様々な活動を充実したものにしましょう。

さて、問題です。右の写真の言葉は、学校のある場所に飾ってありますが、どこでしょうか。ヒントは、本校の児童は本をよく読んでいるので、きっと多くの児童がわかると思います。そう、答えは「図書室」です。「べんきょう しんぼう こんじょう」と書いてあります。

この言葉の意味について考えてみましょう。「べんきょう(勉強)」とは、学ぶことです。では、「しんぼう(辛抱)」と「こんじょう(根性)」は、どういう意味でしょうか。辞書には、「しんぼう」とは、つらさをこらえ耐えること、「こんじょう」とは、困難にもくじけない強さ、と書いています。私が子どもの頃には、大人から「辛抱せえ!」とか「根性やあ!」などよく言われたものです。ぐっとこらえて歯を食いしばり、ひたむきに頑張るというイメージがあります。しかし、今ではもう少し柔らかく、「ねばり強く、諦めない心」という意味で使われることが多く、人の生き方として大切な言葉だと思います。



本校のめざす児童像のひとつには、『辛抱強く、諦めず、何事も最後まで精一杯取り組むことのできる子ども』があります。まさに「しんぼう こんじょう」です。ここでは、『最後まで』というところが大切です。最後、つまり目的地である「ゴール」をしっかりと見据えて、そこに向かうためには、いつ、何を、どのように取り組むのかという「見通し」をもちます。1時間の授業にも「めあて」があり、めあての達成に向かって、どんな学習をどのように取り組むのか見通しをもって進めていきます。見通しをもつことで、子どもは安心して前へ進んでいこうとします。ただ、その道のりは簡単ではなく、困難なこと、しんどいこと、面倒なことが待っています。そんな時に「ねばり強く、諦めない心」をもって取り組んでいける子どもを育てていくことを本校ではめざしています。そのためには、教師の適切な指導や支援、友達の協力や励まし、家族や地域の支えや見守り等が必要です。今後も、学校・家庭・地域が力を合わせて子どもたちを育ていけるよう御協力をお願いします。

この書の作者は、「べんきょう しんぼう こんじょう」の言葉を通して、「べんきょうはしんどいこともあるけれど、ねばりよくあきらめないで、がんばるんだよ」と、子どもたちを励ましてくれているように思います。「べんきょう しんぼう こんじょう」心のどこかに留めておきたい言葉です。

